

Ensemble Eurhythmics

JAPAN / Member of KUNITACHI College of Music



《 見える音 》

作品のメッセージの中に、音・動・光と沈黙・静・影の対照的現象を融合させ、シンプルで自然な音楽空間を奏でます！

E.J.=ダルクローズの芸術理念、ダンス様式に魅せられ、1987年に発足した「プラスチックアニメ」研究グループ
国立音楽大学リトミック専攻の卒業生を中心とした音楽家、演奏家、作曲家、音楽教師など、多彩なメンバーです

今夏よりホームページ開設しました！

Facebook ページも! <https://www.facebook.com/ensemble.eurhythmics> または「アンサンブル ユーリズミクス」で検索

『オーボエとファゴットのためのソナチネ』より第1,第2楽章 作曲：アンドレ・ジョリヴェ

ジョリヴェは、近現代の強烈な不協和音の響きに音楽的な意味を与えようと試みた作曲家である。この曲はダブルリードならではの力強さと繊細さ、息の長いフレーズと鋭いモチーフの絡み合いで、彼が求め続けた原始音楽を見事に表現している。

第1楽章は、何かが蠢いているようなモチーフに始まり、特徴的なリズムが弾け、波打ち次第に激しくなっていく様子を表現する。

息の長い旋律と脈打つ一定のリズムが緊張感のある静けさを生み出す第2楽章では、2つの楽器が常に対照的な役割を担っている様子を表現する。

『24の前奏曲作品28』より 第4, 第8番 作曲：フレデリック・ショパン

すべての長短調を網羅した前奏曲集。1839年にマジョルカ島で完成される。

動きと演奏の両面から作品創りに取り組んだ。

4番：前半は息の長いフレーズを呼吸によって、後半は大きな動きを伴って表現した。演奏をする際に息使いや緊張と弛緩を感じられるようになった。

8番：全体的に agitato の大きなうねりと流れ、フレーズ感、スラーのしなやかさ、3分音符の華やかさに留意して創作した。譜読みの段階から曲全体の構成、音質のイメージをもって取り組めた事は大きな成果であった。聴くだけでは逃してしまう和音の変化まで気付く事ができた。

風響譚詩 (ふうきょうたんし) 作曲：桃井聖司

(作曲者より) 太古の昔から、風はときに私たちに潤いを与え、ときに脅威を与えてきました。流れる風の変化から季節を感じ、そよ風の匂いから安らぎを感じ、吹きすさぶ風の勢いに怖れおののきながら、生活を営んできたのです。そんな様々な風の「響き」とそれに呼応する人間の「感情」や「呼吸」を、邦楽器の音色に投影してプラスチックアニメとして表現しました。

(動き手より) 邦楽器の奏法や音色を表現するため、日本の伝統文化の所作を取り入れて動きを創作した。太鼓の雄々しさ、箏の太い旋律、笛の女性的な細さ、琴の華やかさ等の視覚化にあたり、フォーメーションや身体の高さ、手の使い方などを工夫した。後半に展開する場面では、太鼓の迫力とボディークラッピングでの4人の一体感を表現したい。

監修,演出：中館栄子

EE 代表

元国立音楽大学准教授

日本ダルクローズ音楽教育学会常任理事

日本ジャック=ダルクローズ協会理事



企画,進行：内藤郁子

音楽教室主宰、講師

EE 企画担当

<https://www.voix-claire.jp/>

江川綾

ピアノ教室主宰、講師

EE ライブラリー担当



高橋諒多

2015 春、国立音楽大学卒業

保育園リトミック講師

矢作智

2015 春、国立音楽大学卒業

9月より I.J.D. 入学

